

きたすま

五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると……
(使徒言行録2・1)

No.203(6月号)

2020年5月31日発行
発行 カトリック北須磨教会
〒654-0151
神戸市須磨区北落合2-3-1
発行人 高橋 聡
編集 広報委員会

99俱樂部

グイノ・ジェラルル神父

昔、とある国に一人の王がいました。王は自分の国の人々の気持ちを知るために、朝早く街を散歩する習慣がありました。散歩をしながら人々の様子を観察することで、良きにつけ悪しきにつけ苦痛を訴える人がいれば、いらいらする人もいることに気づきました。また、反対に絶えず幸せに生きる人がいることにも気づきました。街の中だけでなく自分の宮殿にいる人々も同じ状態でした。ある日、王は侍従長と話しました。「今朝の散歩時に、余はいつも幸せに歌っている人と出会った。『なぜ、あなたはいつも幸せそうに歌っているのですか?』と聞くと、『王様、私はとても恵まれています。優しい妻と元気な子供たちに囲まれています。仕事に対しても全く問題がありません。生きるために十分な給料をいただいていますし、毎日妻はおいしい食事を作ってくれるので毎日が楽しくワクワクしています』と答えたのじゃ」。

それを聞くと、侍従長は「王様、きっとその人は『99俱樂部』にまだ属していないと思います」と答えました。「えっ? 99俱樂部、それはいったい何じゃ?」と王が尋ねると、侍従長は次のように返事しました。「99俱樂部を知りたいのなら、王様、私の言うようになさってください。つまり、綺麗な袋の中に99枚の金貨を入れて、今朝会った男の家の戸口に密かに置いてください。そして数日じっと待ってください。一週間経たないうちに99俱樂部のことがはっきりと解ることでしょう。」そう侍従長は勧めました。次の日、朝早く王は侍従長が言った通りにさっそく男の家の戸口に金貨の袋を置きました。

しばらくして男は家の戸口に袋を発見しました。男は、それを家に持って入りました。袋を開けると同時に彼は大きな叫び声をあげました。まばゆいばかりの金貨が袋いっぱいに入っていました。そしてゆっくり金貨を数え始めました。「1枚、2枚、3枚…99枚」。何回数えても100枚の金貨には1枚足りませんでした。「あれ、やっぱり1枚足りない」。袋に金貨を入れる時に99枚だけ入れる人はいないと思い込んでいるこの男は、「きっと自分がどこかで金貨を1枚落としに違いない」と思い込みました。男は家の隅々まで金貨を探し始めました。しかし、どこを探しても見つかりません。足りない1枚を見つけることが出来なかった男はイライラしてきました。そして家族全員と一緒に探すように強く要求しました。勿論、足りない1枚の金貨を誰も発見することはできません。どうしても100枚の金貨を自分の手に持ちたく感じ、男は給料を増やすために今までよりも長く働くことにしました。しかし1枚の金貨を手に入れるまでに、男は過労で疲れ果ててしまいました。苦情や不満、不平を言い始めました。そしてとうとう歌うことも辞めてしまいました。それどころか、家族のあれだけ幸せそうだった雰囲気も消えていました。

一週間後、いつものように街の散歩をしていた王は、男がとても変わったのを目にし、非常に驚きました。宮殿に戻ると、すぐ侍従長を呼んで、今、見たことを話しました。「それはよろしゅうございました、王様。ご覧になった通り、男はようやく『99俱樂部』のメンバーになったのです」。そう侍従長は嬉しそうに断言しました。王がもっと理解できるように、侍従長は話し続けました。「幸せに生きるために十分な物を持っているにもかかわらず、もっともっと持つために努める人々に、私は『99俱樂部』という名前を付けています。彼らは「足りないイチ」を所有するためにそわそわと落ち着かない人々です。彼らは完全に幸せになるために、99ではなく100の物が必要だと思っているのです」。

イエスはたとえ話を通して、「1枚のドラグマを無くした貧しい女」(参照：ルカ15,8-10)について語りました。彼女は家を隅から隅まで掃き、1枚のコインを見つけるまで念を入れて捜しました。そして、見つけたら友だちや近所の女たちを呼び集め、「無くした銀貨を見つけましたから、一緒に喜んでください」と言って、非常に喜んだのです。彼女にとっては無くしたこの1枚の銀貨は生きるために必要不可欠のものでした。彼女が幸せを味わうために決して多くの物は必要ではありませんでした。

今日の物語に出てきた男は人生のあらゆる面で恵まれていて、とても幸せでした。余分な物を求めないならば、私たちも幸せな人生を味わうことができるのです。もし私たちも物を求めてやまない人になっているなら、思い悩んだり不満・不平を言い、人に対して苛立ちやすくなってしまいます。イライラして睡眠不足や体を壊してしまうなど、結局私たちの幸せを失ってしまうのです。ですから、イエスの懸命な勧めを心にとめましょう。「明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」(参照：マタイ6,34)、「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか」(参照：マタイ16,26)。

緊急事態宣言解除を受け、5月31日(日)より、主日のミサが以下の通り再開されます

1. ミサに参加できる地区を以下のように割り振っています

(感染防止のため参加人数に制限をもうけています)

5月31日(日) 第1・第4地区

6月7日(日) 第2・第5地区

6月14日(日) 第3・第6B・第7地区

6月21日(日) 第6A地区

6月28日(日) 第1・第4地区 (火曜日のミサは当面ありません)

2. 自宅で検温し、熱がある時には参加しないようお願いします

参加時はマスクを着用してください

教会でのお茶の準備はありませんので各自で準備をお願いします

3. 他の教会も感染予防のため人数制限をしていますので行かないようにしてください

きたすまホームページに教区からのお知らせ文、新型コロナウイルス感染下にある教会での集まりについてのガイドラインへのリンクを掲載しています。是非お読みください。

